

平成22年度 事務事業評価

整理番号  
30-1

平成21年度予算	会計名称	款	項	目	事業	細事業
	一般会計	08	01	01	50	03
細事業名		府道久美浜湊宮浦明線バイパス関連用地整備事業				

担当部局	建設部
担当課等	管理課
担当課長の氏名	川口 勝彦
担当者の氏名	葛原 睦民

PLAN	
総合計画 (前期基本計画)	基本方針 (政策) VI うるおい安全都市
	計画項目 (施策) ② 道路ネットワークの整備
	施策方針 2 安全・安心で快適な道路網の整備
事業の目的	(どのような目的で事業を実施するか) 府道久美浜湊宮浦明線バイパス改良事業に関連した市道路改良において、現在、未登記となっているため、無籍地の表題登記と用地取得のための登記整理を行う。
	平成26年度事業の効果目標 (平成26年度までに、どのような効果をだすか。できるだけ指標と数値で記入)

DO	
平成21年度事業の実績	(何を対象に、何をしたか) 無籍地の測量及び表題登記が完了した。
平成21年度事業の効果	(実績により、どのような効果があったか。できるだけ指標と数値で記入) 無籍地の測量及び表題登記が完了したことで、府道バイパスに接続する市道早尾線の未登記整理の準備がようやく整った。

●平成21年度決算

予算科目	歳出		歳入		
	節	金額(千円)	項目	名称	金額(千円)
	13	2,076	国庫支出金		
			府支出金		
			起債		
			分担金・負担金		
			その他		
			一般財源		2,076
事業費合計		2,076	合計		2,076

CHECK					
評価	目標達成度・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)が、PLAN(事業の目的、あるいは平成26年度事業の効果目標)の達成に向けて順調に進捗したか				
	<table border="1"> <tr> <td>○ 進捗している(できている)</td> <td rowspan="3">理由</td> <td rowspan="3">無籍地の測量及び表題登記が完了したことで、事業計画の約80%程度が達成できた。</td> </tr> <tr> <td>▲ 少し遅れている(少しできていない)</td> </tr> <tr> <td>× 遅れている(できていない)</td> </tr> </table>	○ 進捗している(できている)	理由	無籍地の測量及び表題登記が完了したことで、事業計画の約80%程度が達成できた。	▲ 少し遅れている(少しできていない)
○ 進捗している(できている)	理由	無籍地の測量及び表題登記が完了したことで、事業計画の約80%程度が達成できた。			
▲ 少し遅れている(少しできていない)					
× 遅れている(できていない)					
評価	効率性・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)に対して、コスト削減の余地がなかったか				
	<table border="1"> <tr> <td>○ 削減の余地がなかった</td> <td rowspan="3">理由</td> <td rowspan="3">測量及び表題登記という専門的な事業であることと、行政コスト削減のためにすべて業者(土地家屋調査士)へ委託したものであり、これ以上の削減の余地はなかった。</td> </tr> <tr> <td>▲ 少し削減の余地があった</td> </tr> <tr> <td>× 削減の余地があった</td> </tr> </table>	○ 削減の余地がなかった	理由	測量及び表題登記という専門的な事業であることと、行政コスト削減のためにすべて業者(土地家屋調査士)へ委託したものであり、これ以上の削減の余地はなかった。	▲ 少し削減の余地があった
○ 削減の余地がなかった	理由	測量及び表題登記という専門的な事業であることと、行政コスト削減のためにすべて業者(土地家屋調査士)へ委託したものであり、これ以上の削減の余地はなかった。			
▲ 少し削減の余地があった					
× 削減の余地があった					

ACTION					
改善	事業内容の方向性				
	<table border="1"> <tr> <td>A 現状維持</td> <td rowspan="3">理由</td> <td rowspan="3">計画では、平成22年度中に事業完了を図る予定としている。</td> </tr> <tr> <td>C B 内容の見直し</td> </tr> <tr> <td>C 統廃合・休止・終了</td> </tr> </table>	A 現状維持	理由	計画では、平成22年度中に事業完了を図る予定としている。	C B 内容の見直し
A 現状維持	理由	計画では、平成22年度中に事業完了を図る予定としている。			
C B 内容の見直し					
C 統廃合・休止・終了					
改善	事業規模の方向性				
	<table border="1"> <tr> <td>A 事業拡大</td> <td rowspan="3">理由</td> <td rowspan="3"></td> </tr> <tr> <td>B 現状維持</td> </tr> <tr> <td>C 事業縮小</td> </tr> </table>	A 事業拡大	理由		B 現状維持
A 事業拡大	理由				
B 現状維持					
C 事業縮小					

平成22年度 事務事業評価

整理番号  
30-2

平成21年度予算	会計名称	款	項	目	事業	細事業
	一般会計	08	02	02	01	01
細事業名		市道環境整備事業				

担当部局	建設部
担当課等	管理課
担当課長の氏名	川口 勝彦
担当者の氏名	葛原 睦民

PLAN	
総合計画 (前期基本計画)	基本方針 (政策) VI うるおい安全都市 計画項目 (施策) ② 道路ネットワークの整備 施策方針 2 安全・安心で快適な道路網の整備
事業の目的	(どのような目的で事業を実施するか) 市道の草刈及び維持補修を行なうことにより、地域の生活道路の環境整備と災害・事故等の防止を図る。 事業の目的 (平成26年度までに、どのような効果をだすか。できるだけ指標と数値で記入) 市道の自治会への草刈委託数 H21末14箇所 ⇒ H26末20箇所

DO	
平成21年度事業の実績	(何を対象に、何をしたか) 市道の草刈の地元自治会委託や、緊急性の高い危険な市道等の修繕を地元業者へ発注するなど安心・安全な道路環境整備を図った。
平成21年度事業の効果	(実績により、どのような効果があったか。できるだけ指標と数値で記入) 道路等の維持補修について一部自治会や業者へ委託することで、早期な対応が図られ、早期な危険箇所の回避が図られた。地元自治会への草刈委託14箇所、業者草刈9箇所カーブミラー、ガードレール等の修繕・新設21箇所、トンネル内照明修繕1箇所

●平成21年度決算

予算科目	歳出		歳入		
	節	金額(千円)	項目	名称	金額(千円)
事業費合計	11	641	財源内訳	国庫支出金	
	13	18,484		府支出金	
	15	3,109		起債	
			分担金・負担金		
			その他		
			一般財源	22,234	
事業費合計		22,234	合計	22,234	

CHECK					
評価	目標達成度・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)が、PLAN(事業の目的、あるいは平成26年度事業の効果目標)の達成に向けて順調に進捗したか				
	<table border="1"> <tr> <td>○ 進捗している(できている)</td> <td rowspan="3">理由</td> <td rowspan="3">道路等の維持補修について早期な対応が図ることができ、災害、事故の恐れのある危険の回避が図ることができた。</td> </tr> <tr> <td>▲ 少し遅れている(少しできていない)</td> </tr> <tr> <td>× 遅れている(できていない)</td> </tr> </table>	○ 進捗している(できている)	理由	道路等の維持補修について早期な対応が図ることができ、災害、事故の恐れのある危険の回避が図ることができた。	▲ 少し遅れている(少しできていない)
○ 進捗している(できている)	理由	道路等の維持補修について早期な対応が図ることができ、災害、事故の恐れのある危険の回避が図ることができた。			
▲ 少し遅れている(少しできていない)					
× 遅れている(できていない)					
評価	効率性・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)に対して、コスト削減の余地がなかったか				
	<table border="1"> <tr> <td>○ 削減の余地がなかった</td> <td rowspan="3">理由</td> <td rowspan="3">安心・安全な道路環境整備においては、早期な危険回避が第一優先されるべき事業であるため削減の余地がなかった。</td> </tr> <tr> <td>▲ 少し削減の余地があった</td> </tr> <tr> <td>× 削減の余地があった</td> </tr> </table>	○ 削減の余地がなかった	理由	安心・安全な道路環境整備においては、早期な危険回避が第一優先されるべき事業であるため削減の余地がなかった。	▲ 少し削減の余地があった
○ 削減の余地がなかった	理由	安心・安全な道路環境整備においては、早期な危険回避が第一優先されるべき事業であるため削減の余地がなかった。			
▲ 少し削減の余地があった					
× 削減の余地があった					

ACTION									
改善	事業内容の方向性								
	<table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>A 現状維持</td> <td rowspan="3">理由</td> <td rowspan="3">引き続き安心・安全な道路環境整備を行ない、災害と事故防止を図るとともに、地元自治会等と協働することで、より決め細やかな維持管理が可能となるため、地元自治会へ協力を要請していく。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>B 内容の見直し</td> </tr> <tr> <td></td> <td>C 統廃合・休止・終了</td> </tr> </table>	A	A 現状維持	理由	引き続き安心・安全な道路環境整備を行ない、災害と事故防止を図るとともに、地元自治会等と協働することで、より決め細やかな維持管理が可能となるため、地元自治会へ協力を要請していく。		B 内容の見直し		C 統廃合・休止・終了
	A	A 現状維持	理由			引き続き安心・安全な道路環境整備を行ない、災害と事故防止を図るとともに、地元自治会等と協働することで、より決め細やかな維持管理が可能となるため、地元自治会へ協力を要請していく。			
		B 内容の見直し							
	C 統廃合・休止・終了								
事業規模の方向性									
<table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>A 事業拡大</td> <td rowspan="3">理由</td> <td rowspan="3">新たな市道整備や府道等の移管により、市が管理する道路延長が拡大傾向にある。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>B 現状維持</td> </tr> <tr> <td></td> <td>C 事業縮小</td> </tr> </table>	A	A 事業拡大	理由	新たな市道整備や府道等の移管により、市が管理する道路延長が拡大傾向にある。		B 現状維持		C 事業縮小	
A	A 事業拡大	理由			新たな市道整備や府道等の移管により、市が管理する道路延長が拡大傾向にある。				
	B 現状維持								
	C 事業縮小								

平成22年度 事務事業評価

整理番号  
30-3

平成21年度予算	会計名称	款	項	目	事業	細事業
	一般会計	08	02	02	01	02
細事業名		市道維持補修事業				

担当部局	建設部
担当課等	管理課
担当課長の氏名	川口 勝彦
担当者の氏名	葛原 睦民

PLAN	
総合計画 (前期基本計画)	基本方針 (政策) VI うるおい安全都市
	計画項目 (施策) ② 道路ネットワークの整備
	施策方針 2 安全・安心で快適な道路網の整備
事業の目的	(どのような目的で事業を実施するか) 市道等の軽易な維持補修事業を地元自治会と協働してを行なうことにより、よりきめ細やかで、迅速に地域の生活道路の環境整備と災害・事故等の防止を図る。
	平成26年度事業の効果目標 (平成26年度までに、どのような効果をだすか。できるだけ指標と数値で記入)

DO	
平成21年度事業の実績	(何を対象に、何をしたか) 地元要望の強い軽易な市道修繕に対して、施工機械の借上げ料及び原材料の支給を行なうことで、地元自治会と協働して維持修繕を行い、きめ細やかなで安心・安全な道路環境整備が図られた。
平成21年度事業の効果	(実績により、どのような効果があったか。できるだけ指標と数値で記入) 地元要望が強い簡易な市道路等の維持補修について自治会と協働して施工することで、よりきめ細やかで、迅速な危険箇所の回避が図られた。 原材料支給地区 延べ100地区 機械借上料支給地区 延べ23地区

●平成21年度決算

予算科目	歳出		歳入		
	節	金額(千円)	項目	名称	金額(千円)
予算科目	11	25,695	財源内訳	国庫支出金	
	12	10		府支出金	
	14	801		起債	
	16	9,915		分担金・負担金	
			その他		
			一般財源	36,421	
事業費合計		36,421	合計		36,421

CHECK					
評価	目標達成度・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)が、PLAN(事業の目的、あるいは平成26年度事業の効果目標)の達成に向けて順調に進捗したか				
	<table border="1"> <tr> <td>○ 進捗している(できている)</td> <td rowspan="3">理由</td> <td rowspan="3">事業実施によりきめ細やかで迅速な市道等の維持補修が図られ、事業目的が達成が十分にできた。</td> </tr> <tr> <td>▲ 少し遅れている(少しできていない)</td> </tr> <tr> <td>× 遅れている(できていない)</td> </tr> </table>	○ 進捗している(できている)	理由	事業実施によりきめ細やかで迅速な市道等の維持補修が図られ、事業目的が達成が十分にできた。	▲ 少し遅れている(少しできていない)
○ 進捗している(できている)	理由	事業実施によりきめ細やかで迅速な市道等の維持補修が図られ、事業目的が達成が十分にできた。			
▲ 少し遅れている(少しできていない)					
× 遅れている(できていない)					
評価	効率性・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)に対して、コスト削減の余地がなかったか				
	<table border="1"> <tr> <td>○ 削減の余地がなかった</td> <td rowspan="3">理由</td> <td rowspan="3">地元の強い要望に応じて実施する市道等の維持補修のための事業であるため削減の余地がなかった。</td> </tr> <tr> <td>▲ 少し削減の余地があった</td> </tr> <tr> <td>× 削減の余地があった</td> </tr> </table>	○ 削減の余地がなかった	理由	地元の強い要望に応じて実施する市道等の維持補修のための事業であるため削減の余地がなかった。	▲ 少し削減の余地があった
○ 削減の余地がなかった	理由	地元の強い要望に応じて実施する市道等の維持補修のための事業であるため削減の余地がなかった。			
▲ 少し削減の余地があった					
× 削減の余地があった					

ACTION			
改善	事業内容の方向性		
	A 現状維持	理由	引き続き地元自治会と協働した事業を推進し、よりきめ細やかで迅速な市道の維持補修を行ない、災害と事故防止を図る。
	B 内容の見直し		
	C 統廃合・休止・終了		
	事業規模の方向性		
	A 事業拡大	理由	地元の改修要望が市道等の老朽化に伴い年々増大しているため、市道等の維持補修に係る事業規模も拡大傾向にある。なお、平成23年度以降については別途予算措置していた国の交付金事業の完了に伴い、本事業により予算確保する必要が生じるため、予算規模も拡大する。
B 現状維持			
C 事業縮小			

平成22年度 事務事業評価

整理番号  
30-12

平成21年度予算	会計名称	款	項	目	事業	細事業
	一般会計	08	02	04	01	01
細事業名		除雪事業				

担当部局	建設部
担当課等	管理課
担当課長の氏名	川口 勝彦
担当者の氏名	葛原 睦民

PLAN	
総合計画 (前期基本計画)	基本方針 (政策) VI うるおい安全都市
	計画項目 (施策) ② 道路ネットワークの整備
	施策方針 3 冬期間の交通確保
事業の目的	(どのような目的で事業を実施するか) 冬期の生活道路を確保するため、降雪時に速やかな除雪を行い、市民生活及び物資輸送など経済活動の安定を図る。
	平成26年度事業の効果目標 (平成26年度までに、どのような効果をだすか。できるだけ指標と数値で記入)

DO	
平成21年度事業の実績	(何を対象に、何をしたか) 市道及び京都府から委託を受けた国・府道の除雪路線について、市有の除雪機械及び建設等業者所有機械の借上げ並びにリース機械により、除雪計画に基づいて速やかな除雪を行い、市民生活に必要な交通の確保を図った。
平成21年度事業の効果	(実績により、どのような効果があったか。できるだけ指標と数値で記入) 速やかな除雪を行なうことで、通勤・通学等多くの市民の生活の安定と物資輸送など経済活動の安定に寄与することができた。

●平成21年度決算

予算科目	歳出		歳入	
	節	金額(千円)	項目	名称 金額(千円)
財源内訳	11	26,144	国庫支出金	
	12	6,337	府支出金	府除雪作業委託金 33,049
	13	123,915	起債	
	14	23,622	分担金・負担金	
	19	135	その他	
	22	420		
	27	322		
事業費合計		180,895	合計	180,895

CHECK			
評価	目標達成度・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)が、PLAN(事業の目的、あるいは平成26年度事業の効果目標)の達成に向けて順調に進捗したか	理由	降雪時の除雪出動を委託を行なう地元建設業者等の自主判断にゆだねるなど、除雪体制を効率化したことで降雪時の速やかな除雪作業が実施できた。
	○ 進捗している(できている)		
	○ ▲ 少し遅れている(少しできていない)		
	○ × 遅れている(できていない)		
	効率性・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)に対して、コスト削減の余地がなかったか	理由	除雪作業単価は統一したものであり、また、作業量は毎年の降雪回数により増減するものであり削減の余地はなかった。
	○ 削減の余地がなかった		
	○ ▲ 少し削減の余地があった		
	○ × 削減の余地があった		

ACTION				
改善	事業内容の方向性			
	A	A 現状維持	理由 今後も引き続き降雪時に速やかな除雪が行なえる体制整備を図る。	
		B 内容の見直し		
		C 統廃合・休止・終了		
		事業規模の方向性		
	A	A 事業拡大	理由 新たな市道整備や府道等の移管により、市が管理する除雪路線の延長が拡大傾向にある。	
	B 現状維持			
	C 事業縮小			

平成22年度 事務事業評価

整理番号  
30-13

平成21年度予算	会計名称	款	項	目	事業	細事業
	一般会計	08	02	04	01	02
細事業名		除雪機械整備事業				

担当部局	建設部
担当課等	管理課
担当課長の氏名	川口 勝彦
担当者の氏名	葛原 睦民

PLAN	
総合計画 (前期基本計画)	基本方針 (政策) VI うるおい安全都市 計画項目 (施策) ② 道路ネットワークの整備 施策方針 3 冬期間の交通確保
事業の目的	(どのような目的で事業を実施するか) 除雪に必要な市有の除雪機械及び自治会貸付用除雪機械の整備を図り、冬期における市民生活に必要な交通の確保を図る。 事業の目的 (平成26年度までに、どのような効果をだすか。できるだけ指標と数値で記入) 平成26年度事業の効果目標 平成21年度末市有機械保有台数 56台 ⇒ 平成26年度末 73台 平成21年度末自治会貸与機械保有台数 64台 ⇒ 平成26年度末 91台

DO	
平成21年度事業の実績	(何を対象に、何をしたか) 除雪に必要な市有の除雪機械及び自治会貸付用除雪機械について、老朽機械の年次的更新と除雪延長の拡大に伴う新規導入整備を図った。
平成21年度事業の効果	(実績により、どのような効果があったか。できるだけ指標と数値で記入) 市有除雪機械の1台の更新と1台の新規導入。 自治会貸与機械(小型)22台の新規導入。

●平成21年度決算

予算科目	歳出		歳入	
	節	金額(千円)	項目	名称 金額(千円)
	18	38,541	国庫支出金	建設機械整備費補助 8,502
			府支出金	
			起債	
			分担金・負担金	
			その他	
			一般財源	30,039
事業費合計		38,541	合計	38,541

CHECK			
評価	目標達成度・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)が、PLAN(事業の目的、あるいは平成26年度事業の効果目標)の達成に向けて順調に進捗したか	理由	除雪に必要な市有の除雪機械及び自治会貸付用除雪機械の年次的整備について、ほぼ計画どおりに進捗している。
	○ 進捗している(できている)		
	○ ▲ 少し遅れている(少しできていない)		
	○ × 遅れている(できていない)		
効率性・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)に対して、コスト削減の余地がなかったか	理由	必要な除雪機械を確保する上で削減の余地はない。	
○ 削減の余地がなかった			
○ ▲ 少し削減の余地があった			
○ × 削減の余地があった			

ACTION			
改善	事業内容の方向性	理由	市民生活を守る上で、除雪機械の確保は極めて重要であり、年次的な整備を図る必要がある。
	A 現状維持		
	A B 内容の見直し		
	A C 統廃合・休止・終了		
	事業規模の方向性	理由	新たな市道整備や府道等の移管により、市が管理する除雪路線の延長が拡大するに伴い除雪機械の整備も拡大傾向にある。
	A 事業拡大		
A B 現状維持			
A C 事業縮小			

平成22年度 事務事業評価

整理番号  
31-1

平成21年度予算	会計名称	款	項	目	事業	細事業
	一般会計	08	03	02	01	01
細事業名		河川環境整備事業				

担当部局	建設部
担当課等	管理課
担当課長の氏名	川口 勝彦
担当者の氏名	葛原 睦民

PLAN	
総合計画 (前期基本計画)	基本方針 (政策) VI うるおい安全都市 計画項目 (施策) ③ 河川・海岸・港湾の整備 施策方針 1 河川・海岸の整備 2 水辺の景観整備
事業の目的	(どのような目的で事業を実施するか) 京都府管理河川(2級河川)及び市管理河川において、草刈等の環境整備を地元自治会等に委託実施することにより、河川災害の防止と水辺景観の維持保全を図る。 事業の效果目標 (平成26年度までに、どのような効果をだすか。できるだけ指標と数値で記入) 京都府管理河川 平成21年度末 165地区 ⇒ 平成26年度 170地区 市管理河川 平成21年度末 20地区 ⇒ 平成26年度 40地区

DO	
平成21年度事業の実績	(何を対象に、何をしたか) 京都府管理河川(2級河川)及び市管理河川において、自治会等へ草刈及び樋門管理等の環境整備を委託実施し、河川災害を未然に防止し、水辺環境の保全を行なった。
平成21年度事業の効果	(実績により、どのような効果があったか。できるだけ指標と数値で記入) 府河川 165箇所、1,919,000㎡の草刈を実施した。 市河川 20箇所、40,000㎡の草刈を実施した。 湯川放水樋門の維持管理を行なった。

●平成21年度決算

予算科目	歳出		歳入		
	節	金額(千円)	項目	名称	金額(千円)
	13	48,992	国庫支出金		
			府支出金	河川環境整備委託金	47,972
			起債		
			分担金・負担金		
			その他	湯川樋門管理委託金	147
			一般財源		873
事業費合計		48,992	合計		48,992

CHECK							
評価	目標達成度・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)が、PLAN(事業の目的、あるいは平成26年度事業の効果目標)の達成に向けて順調に進捗したか						
	<table border="1"> <tr> <td>▲</td> <td>○ 進捗している(できている)</td> <td rowspan="3">理由 京都府管理河川については、京都府からの委託金により多くの自治会への委託によりおおむね実施できているが、市管理河川については一部において実施しているのみであり、事業の効果目標に対してやや未達成となっている。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>▲ 少し遅れている(少しできていない)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>× 遅れている(できていない)</td> </tr> </table>	▲	○ 進捗している(できている)	理由 京都府管理河川については、京都府からの委託金により多くの自治会への委託によりおおむね実施できているが、市管理河川については一部において実施しているのみであり、事業の効果目標に対してやや未達成となっている。		▲ 少し遅れている(少しできていない)	
▲	○ 進捗している(できている)	理由 京都府管理河川については、京都府からの委託金により多くの自治会への委託によりおおむね実施できているが、市管理河川については一部において実施しているのみであり、事業の効果目標に対してやや未達成となっている。					
	▲ 少し遅れている(少しできていない)						
	× 遅れている(できていない)						
評価	効率性・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)に対して、コスト削減の余地がなかったか						
	<table border="1"> <tr> <td>○</td> <td>○ 削減の余地がなかった</td> <td rowspan="3">理由 地元自治会への委託事業であるため削減の余地はない。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>▲ 少し削減の余地があった</td> </tr> <tr> <td></td> <td>× 削減の余地があった</td> </tr> </table>	○	○ 削減の余地がなかった	理由 地元自治会への委託事業であるため削減の余地はない。		▲ 少し削減の余地があった	
○	○ 削減の余地がなかった	理由 地元自治会への委託事業であるため削減の余地はない。					
	▲ 少し削減の余地があった						
	× 削減の余地があった						

ACTION							
改善	事業内容の方向性						
	<table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>A 現状維持</td> <td rowspan="3">理由 河川環境整備、河川災害防止の観点から引き続き実施していく。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>B 内容の見直し</td> </tr> <tr> <td></td> <td>C 統廃合・休止・終了</td> </tr> </table>	A	A 現状維持	理由 河川環境整備、河川災害防止の観点から引き続き実施していく。		B 内容の見直し	
A	A 現状維持	理由 河川環境整備、河川災害防止の観点から引き続き実施していく。					
	B 内容の見直し						
	C 統廃合・休止・終了						
改善	事業規模の方向性						
	<table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>A 事業拡大</td> <td rowspan="3">理由 河川環境整備、河川災害防止の観点から京都府管理河川だけでなく、市管理河川においても必要な箇所への事業拡大が必要である。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>B 現状維持</td> </tr> <tr> <td></td> <td>C 事業縮小</td> </tr> </table>	A	A 事業拡大	理由 河川環境整備、河川災害防止の観点から京都府管理河川だけでなく、市管理河川においても必要な箇所への事業拡大が必要である。		B 現状維持	
A	A 事業拡大	理由 河川環境整備、河川災害防止の観点から京都府管理河川だけでなく、市管理河川においても必要な箇所への事業拡大が必要である。					
	B 現状維持						
	C 事業縮小						

平成22年度 事務事業評価

整理番号  
31-6

平成21年度予算	会計名称	款	項	目	事業	細事業
	一般会計	08	06	01	02	01
細事業名		アメニティ久美浜管理事業				

担当部局	建設部
担当課等	管理課
担当課長の氏名	川口 勝彦
担当者の氏名	葛原 睦民

PLAN	
総合計画 (前期基本計画)	基本方針 (政策) VI うるおい安全都市 計画項目 (施策) ③ 河川・海岸・港湾の整備 施策方針 2 水辺の景観整備
事業の目的	(どのような目的で事業を実施するか) アメニティ久美浜公園(京都府港湾も含む)の維持管理事業の円滑な実施により、市民に港湾区域での憩いの場を提供することで久美浜湾周辺市街地の活性化を図る。 1 河川・海岸の整備
事業の目的	(どのような目的で事業を実施するか) アメニティ久美浜公園(京都府港湾も含む)の維持管理事業の円滑な実施により、市民に港湾区域での憩いの場を提供することで久美浜湾周辺市街地の活性化を図る。 平成26年度事業の効果目標 (平成26年度までに、どのような効果をだすか。できるだけ指標と数値で記入)

DO	
平成21年度事業の実績	(何を対象に、何をしたか) アメニティ久美浜公園(京都府港湾も含む)の適正な管理により、市民の憩いの場の提供と、周辺に点在する観光施設と連携することで、久美浜湾周辺市街地の活性化に寄与した。
平成21年度事業の効果	(実績により、どのような効果があったか。できるだけ指標と数値で記入) アメニティ久美浜公園(京都府港湾も含む)約8,300㎡の維持管理を業者及び地元自治会等に委託実施。

●平成21年度決算

予算科目	歳出		歳入		
	節	金額(千円)	項目	名称	金額(千円)
事業費合計	11	75	国庫支出金		
	13	1,899	府支出金	管理委託金	1,598
			起債		
			分担金・負担金		
			その他		
			一般財源		376
			合計		1,974
	事業費合計		1,974	合計	

CHECK	
評価	目標達成度・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)が、PLAN(事業の目的、あるいは平成26年度事業の効果目標)の達成に向けて順調に進捗したか
	○ 進捗している(できている) ▲ 少し遅れている(少しできていない) × 遅れている(できていない)
	理由 港湾公園として、周辺の観光施設と連携し、地域の新たな魅力としての効果を発揮しており、また、市民の憩いの場として定着するなど事業の目的についておおむね達成ができています。
	効率性・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)に対して、コスト削減の余地がなかったか
○ 削減の余地がなかった ▲ 少し削減の余地があった × 削減の余地があった	
理由 公園の芝生管理を民間に委託するなど効率的な管理を行っているため、削減の余地はない。	

ACTION	
改善	事業内容の方向性
	A 現状維持 B 内容の見直し C 統廃合・休止・終了
	理由 市民の憩いの場の提供と、周辺に点在する観光施設と連携による久美浜湾周辺市街地の活性化を図るため、引き続き適正な維持管理を行なう。
	事業規模の方向性
	A 事業拡大 B 現状維持 C 事業縮小
	理由 市民の憩いの場の提供と、周辺に点在する観光施設との連携による久美浜湾周辺市街地の活性化に対してますます期待されており、平成22年度には公園内にトイレが整備されることもあり事業規模としては拡大傾向にある。

平成22年度 事務事業評価

整理番号  
36-21

平成21年度予算	会計名称	款	項	目	事業	細事業
	一般会計	08	03	01	01	01
細事業名		急傾斜地崩壊対策事業				

担当部局	建設部
担当課等	管理課
担当課長の氏名	川口 勝彦
担当者の氏名	葛原 睦民

PLAN	
総合計画 (前期基本計画)	基本方針 (政策) VI うるおい安全都市 計画項目 (施策) ⑧ 消防・防災体制の強化 施策方針 5 危険箇所解消による防災対策
事業の目的	(どのような目的で事業を実施するか) 住宅背後の急峻な崖地の崩壊の危険を解消し、市民の人命及び財産を守る。 事業の目的 (平成26年度までに、どのような効果をだすか。できるだけ指標と数値で記入)
平成26年度事業の効果目標	施工箇所数 平成21年度末 6地区 → 平成26年度末 10地区

DO	
平成21年度事業の実績	(何を対象に、何をしたか) 市内6地区において、急傾斜地崩壊対策事業を実施し、崖地崩壊の危険を解消した。
平成21年度事業の効果	(実績により、どのような効果があったか。できるだけ指標と数値で記入) 危険な崖地の解消(6地区)

●平成21年度決算

予算科目	歳出		歳入		
	節	金額(千円)	項目	名称	金額(千円)
	19	14,765	国庫支出金		
			府支出金		
			起債		
			分担金・負担金	地元分担金	2,834
			その他		
			一般財源		11,931
事業費合計		14,765	合計		14,765

CHECK						
評価	目標達成度・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)が、PLAN(事業の目的、あるいは平成26年度事業の効果目標)の達成に向けて順調に進捗したか					
	<table border="1"> <tr> <td>○ 進捗している(できている)</td> <td rowspan="3">理由</td> <td rowspan="3">施工主体である京都府の年次計画に沿って実施されており、平成21年度においては市内6地区において、急傾斜地崩壊対策事業を実施し、崖地崩壊の危険を解消した。</td> </tr> <tr> <td>▲ 少し遅れている(少しできていない)</td> </tr> <tr> <td>× 遅れている(できていない)</td> </tr> </table>	○ 進捗している(できている)	理由	施工主体である京都府の年次計画に沿って実施されており、平成21年度においては市内6地区において、急傾斜地崩壊対策事業を実施し、崖地崩壊の危険を解消した。	▲ 少し遅れている(少しできていない)	× 遅れている(できていない)
	○ 進捗している(できている)	理由			施工主体である京都府の年次計画に沿って実施されており、平成21年度においては市内6地区において、急傾斜地崩壊対策事業を実施し、崖地崩壊の危険を解消した。	
	▲ 少し遅れている(少しできていない)					
× 遅れている(できていない)						
効率性・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)に対して、コスト削減の余地がなかったか						
<table border="1"> <tr> <td>○ 削減の余地がなかった</td> <td rowspan="3">理由</td> <td rowspan="3">京都府が事業主体となって施工した事業費に対して市は負担金を支払うものであり、削減の余地はない。</td> </tr> <tr> <td>▲ 少し削減の余地があった</td> </tr> <tr> <td>× 削減の余地があった</td> </tr> </table>	○ 削減の余地がなかった	理由	京都府が事業主体となって施工した事業費に対して市は負担金を支払うものであり、削減の余地はない。	▲ 少し削減の余地があった	× 削減の余地があった	
○ 削減の余地がなかった	理由			京都府が事業主体となって施工した事業費に対して市は負担金を支払うものであり、削減の余地はない。		
▲ 少し削減の余地があった						
× 削減の余地があった						

ACTION						
改善	事業内容の方向性					
	<table border="1"> <tr> <td>A 現状維持</td> <td rowspan="3">理由</td> <td rowspan="3">京都府の事業計画に沿って実施地区の早期の事業完了を目指すとともに、より多くの事業実施が図られるよう京都府に対し継続的な事業実施を求めていく。</td> </tr> <tr> <td>B 内容の見直し</td> </tr> <tr> <td>C 統廃合・休止・終了</td> </tr> </table>	A 現状維持	理由	京都府の事業計画に沿って実施地区の早期の事業完了を目指すとともに、より多くの事業実施が図られるよう京都府に対し継続的な事業実施を求めていく。	B 内容の見直し	C 統廃合・休止・終了
	A 現状維持	理由			京都府の事業計画に沿って実施地区の早期の事業完了を目指すとともに、より多くの事業実施が図られるよう京都府に対し継続的な事業実施を求めていく。	
	B 内容の見直し					
	C 統廃合・休止・終了					
	事業規模の方向性					
<table border="1"> <tr> <td>A 事業拡大</td> <td rowspan="3">理由</td> <td rowspan="3">京都府が実施した土砂災害防止法に基づく急傾斜地等の土砂災害の恐れのある特別警戒区域は市内で43地区470箇所にも及ぶため京都府に対し早期に危険箇所の解消が図られるよう事業拡大を求めていく。</td> </tr> <tr> <td>B 現状維持</td> </tr> <tr> <td>C 事業縮小</td> </tr> </table>	A 事業拡大	理由	京都府が実施した土砂災害防止法に基づく急傾斜地等の土砂災害の恐れのある特別警戒区域は市内で43地区470箇所にも及ぶため京都府に対し早期に危険箇所の解消が図られるよう事業拡大を求めていく。	B 現状維持	C 事業縮小	
A 事業拡大	理由			京都府が実施した土砂災害防止法に基づく急傾斜地等の土砂災害の恐れのある特別警戒区域は市内で43地区470箇所にも及ぶため京都府に対し早期に危険箇所の解消が図られるよう事業拡大を求めていく。		
B 現状維持						
C 事業縮小						

平成22年度 事務事業評価

整理番号  
38-32

平成21年度予算	会計名称	款	項	目	事業	細事業
	一般会計	11	02	01	02	01
細事業名		現年発生公共土木施設災害復旧事業				

担当部局	建設部
担当課等	管理課
担当課長の氏名	川口 勝彦
担当者の氏名	葛原 睦民

PLAN	
総合計画 (前期基本計画)	基本方針 (政策) VI うるおい安全都市
	計画項目 (施策) ② 道路ネットワークの整備
	施策方針 2 安全・安心で快適な道路網の整備
事業の目的	(どのような目的で事業を実施するか) 平成21年度に発生した大雨等の災害により被災した道路及び河川等の被災箇所について、発生年度に早期復旧を行なうことで市民生活の安定を図る。
	平成26年度事業の効果目標 (平成26年度までに、どのような効果をだすか。できるだけ指標と数値で記入)

DO	
平成21年度事業の実績	(何を対象に、何をしたか) 平成21年度に発生した大雨等の災害により被災した道路及び河川等の内、小規模な被災箇所について早急な復旧工事を行なった。
平成21年度事業の効果	(実績により、どのような効果があったか。できるだけ指標と数値で記入) 道路小修繕工事 34箇所 普通河川小修繕工事 21箇所

●平成21年度決算

予算科目	歳出		歳入		
	節	金額(千円)	項目	名称	金額(千円)
	11	10,094	国庫支出金		
			府支出金		
			起債		
			分担金・負担金		
			その他		
			一般財源		10,094
事業費合計		10,094	合計		10,094

CHECK					
評価	目標達成度・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)が、PLAN(事業の目的、あるいは平成26年度事業の効果目標)の達成に向けて順調に進捗したか				
	<table border="1"> <tr> <td>○ 進捗している(できている)</td> <td rowspan="3">理由</td> <td rowspan="3">国等の災害復旧事業に採択されない小規模な災害箇所について、早期に復旧することができ事業目標に対して十分達成できた。</td> </tr> <tr> <td>▲ 少し遅れている(少しできていない)</td> </tr> <tr> <td>× 遅れている(できていない)</td> </tr> </table>	○ 進捗している(できている)	理由	国等の災害復旧事業に採択されない小規模な災害箇所について、早期に復旧することができ事業目標に対して十分達成できた。	▲ 少し遅れている(少しできていない)
○ 進捗している(できている)	理由	国等の災害復旧事業に採択されない小規模な災害箇所について、早期に復旧することができ事業目標に対して十分達成できた。			
▲ 少し遅れている(少しできていない)					
× 遅れている(できていない)					
評価	効率性・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)に対して、コスト削減の余地がなかったか				
	<table border="1"> <tr> <td>○ 削減の余地がなかった</td> <td rowspan="3">理由</td> <td rowspan="3">災害復旧として緊急的な事業であることから削減の余地がなかった。</td> </tr> <tr> <td>▲ 少し削減の余地があった</td> </tr> <tr> <td>× 削減の余地があった</td> </tr> </table>	○ 削減の余地がなかった	理由	災害復旧として緊急的な事業であることから削減の余地がなかった。	▲ 少し削減の余地があった
○ 削減の余地がなかった	理由	災害復旧として緊急的な事業であることから削減の余地がなかった。			
▲ 少し削減の余地があった					
× 削減の余地があった					

ACTION			
改善	事業内容の方向性		
	A 現状維持	理由	災害が発生した場合には、今後も可能な限り早期復旧を図るとともに、いつ起こるかわからない災害に対して、日頃より巡回/パトロールを行なうなどの災害防止対策を進めていく。
	B 内容の見直し		
	C 統廃合・休止・終了		
	事業規模の方向性		
	B 現状維持	理由	災害はいつ起こるかわからないことから、事業規模について推考することは困難であるが、日頃より災害に備えて巡回/パトロールを行なうなどの災害防止対策を進めていく。
A 事業拡大			
C 事業縮小			